

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023

口頭発表

外来がん薬物治療患者に対して適切な支持療法の提案を行うことで
処方カスケードを回避した1例

総合メディカル（株） そうごう薬局 天神中央店
足立 昇平

【背景】がん薬物療法において、副作用に対する支持療法は患者の QOL 向上に大きく貢献するものの、支持療法薬の副作用によって新たな処方カスケードを生じることもある。今回、糖尿病治療中の肺がん患者の化学療法に対し、薬局薬剤師が制吐剤としてのステロイドのスペアリングを提案し、血糖変動を改善させることで処方カスケードを回避した症例を報告する。

【症例】67 歳男性。切除不能進行・再発非小細胞肺癌にてペメトレキセド (PEM) 単剤にて治療開始。2 型糖尿病の治療中。1 コース day1 では食後 2 時間血糖 130mg/dL にて良好。デキサメタゾン錠 (DEX) 1mg1 日 1 回 day2, 3 服用指示にて処方あり。PEM の催吐リスクは軽度であるが、1 週間前より原因不明の悪心があり、体調が不安定なため制吐目的で低用量処方したことを医師に確認。2 コース day1 来局時、DEX 服用中の随時血糖が平均約 180mg/dL に上昇したことを聴取。糖尿病内科からはミチグリニドが追加されるという処方カスケードの状態となった。その後 2 コースにわたり、PEM 開始以降悪心は 1 度も発現しておらず食事摂取等も良好であることが確認できたため、次コースより DEX 内服およびミチグリニドの必要性の確認を両医師に依頼し、代替薬としてメトクロプラミドの頓服処方追加を提案した。提案通り両薬剤は中止となり、その後軽度の悪心が発現するもメトクロプラミドで対応し、治療継続できている。

【考察】本症例から、外来がん薬物治療患者において、処方カスケードが発生する可能性があり、薬局薬剤師が患者の併存疾患の状態や副作用状況を詳細に把握し、適切な支持療法の提案を行うことで、それらの問題解消に寄与できると考えた。